

政務活動費調査研究報告書

会派名 新生・市民クラブ

氏名 大塚正俊

日 程	平成28年1月28日(木) 13:30～16:00
場 所	宮崎県日南市
相手方	日南市商工政策課河野孝士課長補佐、釋迦郡(ジャコリ)崇吉主査
参加議員 氏 名	今井義人、須賀留美子、吉村尚久、大塚正俊 千木良孝之、松井康之、木ノ下素信
目 的	日南市のテナントミックス(油津商店街)、(株)油津応援団の取り組み、多世代交流モールの整備と運営、モールの見学を行い、中心市街地の活性化について現地調査を行います。
内 容	<p>【市の概況】</p> <p>日南市は、宮崎県の南部に位置する市。九州の小京都と称される飴肥(おび)や風光明媚な日南海岸国定公園などを抱える、歴史と自然あふれる観光の街です。プロ野球やJリーグなどのキャンプの招致に成功し、近年クルーズ船により来訪する外国人観光客が増えてきています。</p> <p>油津(あぶらつ)は、かつて「東洋一のマグロ基地」として、そして堀川運河を中心に林業(飴肥杉)で栄えた港町です。商店街は30～40年前は歩くと肩がぶつかるほどでしたが、3年程前にはその影すらなく、いわゆる地方のシャッター商店街となっていました。その再生へ向けて秘策として日南市が打ち出した施策を探ってきました。</p> <p>行政面積；536.10km² 総人口；54,065人 財政力指数；0.36</p> <p>「テナントミックスサポートマネージャー」の公募</p> <p>宮崎県日南市では、市外より専門的知識を持ちあわせた若い実践家を招き、まちに住まわせ、共に考えるだけではなく“動かす”まちづくりを進める取組みを行っています。</p> <p>日南市は「4年で20店舗誘致」、「月額90万円で人材募集」というキャッチーなフレーズでその人材を全国から公募しました。その名も「テナントミックスサポートマネージャー(通称サポマネ)」。</p> <p>応募者は予想をはるかに上回る333人。商店街で行われた公開プレゼンテーションでは市内外から来た会場に入りきれないほどのオーディエンスに見守られながら、木藤亮太さんが選ばれました。</p> <p>サポマネの木藤さんが掲げているテーマは「自走できる商店街づくり」。「4年で20店舗」は一つの数値目標でしかない。4年後をス</p>

タート地点として、商店街が持続的に歩める状況をつくることが最大のミッションだと常に発信しています。

いわゆるまちづくりコンサルタントを名乗る業者として、「外部からまちづくりに関わること」の限界を感じていた木藤さんは、「日南市へ必ず移住する」という日南市の公募条件を見て新たなワークスタイルへの可能性を強く感じました。この熱い思いが今の私を動かしています。コミュニケーションがなくなった商店街の中で、私は一住民としての顔と専門家としての顔を持ちながら、密度の高いコミュニケーションを実践していく。これが可能なのが私の今の強みであり、着任当初から最も心がけて取り組んでいる。」とのことです。

着任1ヶ月後の2013年8月、コミュニケーション再生には「場」が必要と、空き店舗にカフェスペース「Yotten」をオープンしました。これをきっかけに高校生から70代まで多世代の市民が集う、商店街応援団「KITOTICKET」が結成されます。商店主たちとの意見交換はもちろん、「油津オクサマ会議」で母親世代のニーズを聞き取るなど、徹底して腹を割ったコミュニケーションを繰り返しています。

「株式会社油津応援団」

この応援団は2014年3月27日に設立。現在一口30万円を、19名が出資しています。代表取締役・村岡浩司さんの持つ事業ノウハウやネットワーク、取締役・黒田泰裕さんの持つ地元の人脈から、多くの出資者・応援サポーターを得ました。

宮崎市内で飲食店を経営されている方、商工会議所の方と協議を重ねていくなかで、自走できる仕組みづくりとして株式会社を立ち上げようと考えました。4年間という事業期間を越えて、どのような機能をこの商店街に残していくのかというところで、お店をプロデュースし、基盤を整備し、取組みを横へ広げていく民間（市民）投資による会社が必要だと考えているそうです。

「多世代交流モール」

(株)油津応援団が国のリノベーション補助を活用して、スクール、スタジオ、フリースペース&キッチン、油津カープ館など5つの施設を備えた「油津 Yotten」と油津の食を継承し、将来のまちを担う若い店主たちが集い、多種多様な飲食店が6店舗入る「あぶらつ食堂」が、第一弾としてグランドオープン！

「あぶらつ食堂」では、約30mの長い舐肥杉カウンターに沿って店舗が並ぶなど、日南の伝統と、新たな挑戦が融合した素敵な空間になっています。

「油津コンテナガーデン」

たった 4.5 坪の小さなコンテナが 6 つ。家賃等は約 5 万円/月。

しかし無限大の可能性を持ったコンテナです。このコンテナを起点に、あなたも夢がいっぱい詰まった油津商店街のまちづくりに参加しませんか？とのキャッチコピー。

油津商店街への新規出店については、株式会社油津応援団が最大限のバックアップを行っています。

内装・デザイン、メニュー検討、POP・展示、資金計画、経営計画、地元生産者とのつながりづくりなど・・・。

お店づくりや OPEN 後の運営に必要な知識・経験を有する応援団スタッフとともに、充実したお店づくりが可能となっています。

【サボマネ木藤さんの思い】 商店街＝人が育つ場

「日南市は地方都市で雇用の場がないといわれるのですが、商店街のお店一つひとつが若い人たちの雇用の場、元気な姿が見える場となる、『商店街＝人が育つ場』というかたちで進めていければと思っています。その仲間の輪が、彼らが人を呼んでいけるようになることで徐々に広がっていています」。

これまで行ってきた空き店舗の活用や地元の高校生による企画、アーケード下で行われているダンス教室、大学との取組みなど、さまざまなソフトコンテンツが育ってきています。新たな施設が完成し、できることが広がることで、さらなる成長や変化が期待されます。

また、宮崎大学教育文化学部の研究室と共働で取り組んだ調査研究をきっかけとして生まれた、修理・修繕技術を前面に出す情報発信「油津なおしえるじえ」がはじまりました。

変わっていくのは若手だけではありません。大学生との関わりが、商店主を動かすこともあります。

何が人に、まちに変化をもたらすのか、わからないことが多くあります。しかし、「自分にできること」で関わることで、そのはじまりかもしれません。

<p>成 果</p>	<p>日南市は、平成 24 年 11 月に中心市街地活性化法に基づく計画の認可を受け、商店街の活性化を進めています。その前段に従来行ってきた事業の検証を行っています。①空き店舗補助や商店街事業費補助等で平成 10 年度から 26 年度で 265,591 千円もの補助を行ってきても活性化に寄与できていないこと。②出店やその経営相談等について総合的にプロデュースやコントロール人材がいなかった。③単発的なイベントで次に繋げる仕掛けが不足し、マンネリ化、変わり映えのしないイベントになってしまっていた。④役所の役割の限界。⑤コンサル任せで、計画の作成後には報告書は残るが事業の効果が表れない等。検証結果は中津市の現状と全く同じである。</p> <p>これらの課題解決のために選んだ手法が、リーダーシップを取り、各種事業、イベントを総合的にプロデュースする人材、実現可能な近未来像を具体的に描ける人材、成果を追求し油津を再生してくれる人材の確保として「テナントミックスサポートマネージャー」の全国公募。</p> <p>人選にあたって公開プレゼンテーション等を行い、公平・公正な選定を行い、市長の鶴の一声で人選を行わない姿勢が大切と痛切しました。</p> <p>「まちづくりは、人づくり」</p> <p>「自走できる商店街づくり」。「4 年で 20 店舗」は一つの数値目標でしかない。4 年後をスタート地点として、商店街が持続的に歩める状況をつくるのが最大のミッションの言葉が心に今も響いています。</p>
------------	---